

都市再生整備計画 事後評価シート

結城駅周辺地区

令和7年 月

茨城県結城市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県	市町村名	結城市	地区名	結城駅周辺地区			面積	300ha	
交付期間	令和2年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和7年度	交付対象事業費	728.5百万円	国費率	42.3%			
		事業名								
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業 基幹事業	道路(市道0109号線)、公園(南部中央公園改修、浦町児童公園トイレ改修)、地域生活基盤施設(防災拠点整備、地域防災施設)、高質空間形成施設(街路灯整備、歩行者支援施設)								
	提案事業	-								
	事業名	削除/追加の理由					削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	当初計画から削除した事業 基幹事業	-					-			
	提案事業	-					-			
	新たに追加した事業 基幹事業	街なみ環境整備事業(修景施設整備)					歴史的街なみを保存・活用し、魅力的な街づくりを目指すために追加			
	提案事業	地域創造支援事業(立地適正化計画策定)					事業の追加により目標達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く			
	交付期間の変更 当初 変更	- - 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響					都市機能を中心拠点に集約したまちのコンパクト化の推進及び持続可能なまちづくりを目指すために追加			
	指標		従前値 単位	目標値 基準年度	数値 目標年度	目標 モニタリング	達成度 評価値	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1 結城駅周辺地区の公共施設の利用者数	人/年	498,079	H30	540,000	R6	- 417,818	△ あり なし	コロナ禍の影響により、従前値から令和2年度にかけて、49.8万人から25.8万人にまで落ち込んだことから、目標を達成することができなかったが、ハード・ソフト両面からのアクセス性・回遊性の向上により、令和6年度にはコロナ禍前の従前値の84%まで戻ったことから、今後、利用者の増加が見込まれる。	-
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標2 駅を拠点とした市巡回バスの利用者数	人/年	26,683	H30	30,000	R6	- 31,833	○ あり なし	駅の自由通路のバリアフリー化とあわせて、公園の改修やトイレ改築、防災拠点の整備、街路灯の設置等がされたことで、安心して街を回遊できる空間づくりの形成が図られ、指標の目標値達成につながった。	-
	指標3 イベント等による観光客の来場者数	人/年	78,000	H30	90,000	R6	- 140,700	○ あり なし	イベント会場としても使用される南部中央公園の改修や、駅の自由通路のバリアフリー化、歴史的建造物の修景施設整備、公園のトイレ改築、街路灯の設置等、回遊性を高めた魅力的なまちづくりが推進され、指標の目標値達成につながった。	-
	指標4 結城駅周辺地区の人口変動	人	19,327	R1	19,500	R6	- 18,667	△ あり なし	近年、市内人口が減少傾向にある中、居住環境の改善が図られたことにより、地区内人口割合を比較的維持することができたが、指標の目標値は達成できなかった。しかしながら、道路や公園等の都市基盤の整備とともに、街路灯や耐震性貯水槽、防災備蓄倉庫等が設置され、良好な住環境の形成が推進されたことから、今後、地区内人口の増加が見込まれる。	-
	指標		従前値 単位	目標値 基準年度	数値 目標年度	目標 モニタリング	達成度 評価値	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ予定時期
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4)定性的な効果発現状況	・道路や公園等の都市基盤施設の整備の着実な進行とともに、結城駅の自由通路のバリアフリー化や防災拠点の整備、耐震性貯水槽、防災備蓄倉庫、防犯灯の設置など、地区住民が安全に安心して暮らせる環境が整ってきている。 ・街なみ環境整備事業により歴史的資源を活かしたまちづくりが進められ、地域の魅力度の向上にもつながっている。									
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況			今後の対応方針等	
	モニタリング	-					都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-	
	官民連携による取組	-					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	-	
	持続的なまちづくり体制の構築	-					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	-	

様式2-2 地区の概要

結城駅周辺地区（茨城県結城市）都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値		目標値		評価値	
・JR結城駅を中心とし、公共交通機関及び公共施設を利用した中心市街地の活性化 ・結城駅北部の歴史的町並みの有効活用と防災機能強化により安全・快適な空間の提供 ・令和2年の市庁舎移転に伴う、アクセス道や周辺施設の充実を図ることにより利便性と生活機能の向上を図る ・JR結城駅及び新庁舎を中心とした拠点整備及びコンパクト+ネットワークの形成による持続可能なまちづくり	結城駅周辺地区の公共施設の利用者数 単位:人/年 498,079 駅を拠点とした市巡回バスの利用者数 単位:人/年 26,683 イベント等による観光客の来場者数 単位:人/年 78,000 結城駅周辺地区の人口変動 単位:人 19,327	H30	540,000	R6	417,818	R6	
	■高質空間形成施設 結城駅自由通路:延面積797m ² 自由通路エレベーター設置 1基	26,683	H30	30,000	R6	31,833	R6
	■地域創造支援事業 立地適正化計画策定	78,000	H30	90,000	R6	140,700	R6
	○関連事業 【第2のふるさといばらきプロジェクト推進事業】 移住定住促進活動 【IT推進による若者起業支援事業】 人材育成:若者の起業・創業支援活動	19,327	R1	19,500	R6	18,667	R6
■南部中央公園							
■浦町児童公園							
■防災拠点							
■街路灯							
■市道0109号線							
■結城駅自由通路エレベーター							
まちの課題の変化	■観光客の休憩場所となる公園のトイレ改修、近年の猛暑対策として南部中央公園の改修による広場の遮熱ブロック化、街なみ環境整備による歴史的資源の修景等により、イベント等による観光客の来場者数も増加しているが、更なる歴史的街並みの有効活用を図り、地区の魅力度を向上していく必要がある。 ■駅自由通路のバリアフリー化が推進されたことにより、だれもが安全・安心・快適に駅を利用できるようになり、北部地区と南部地区の交流が図られ、市巡回バス利用者の増加や公共施設利用者の回復につながったが、更なる駅利用者の増大と公共施設利用者の増大を図り、地区の活性化を推進していく必要がある。 ■市道0109号線の改修による歩行空間、自転車通行帯の確保や、街路灯の設置による夜間利用者の視認性の向上により、歩行者や自転車などの通行人の安全な誘導が図られ、市庁舎や周辺施設の利便性の向上につながったが、更なる防災機能の強化を図り、安全・安心な住環境を形成していく必要がある。 ■防災備蓄倉庫、耐震性貯水槽を確保した防災拠点の整備により、災害時に市民・観光客の迅速な避難が行える避難場所を設けたことで、街の防災機能強化が図られたが、更に防災拠点のアクセシビリティの向上を図り、市民・観光客の避難の迅速化につなげていく必要がある。						
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	■歴史的街並みの有効活用による地域資源の確保 ■市庁舎周辺におけるアクセス道路や周辺施設の充実による利便性と生活機能の向上 ■多様な世代が暮らしきれる安全・安心な住環境の形成 ■防災拠点のアクセシビリティ向上による災害時における市民・観光客の避難の迅速化 ■立地適正化計画に基づいた持続可能なまちづくりの実践						